

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1年	2	選択
担当教員			
茂木 創			

授業のねらい（概要）	本講義は、ミクロ経済学の理論をより深く理解することはもちろん、それが、社会でどのように使われているのか、事例を用いつつ、学生自らが応用できる能力を涵養することを目的とします。 この科目では、DP（ディプロマポリシー）に掲げられている「構造的・システムの分析力」と「実践的な問題解決能力及び管理運営能力」を養成することを目的としている。
授業計画	<p>第1回 ミクロ経済学とその応用 【遠隔】資源配分をいかに効率的に行うべきか、現実社会は効率的に行われているか、事例を挙げながら、ミクロ経済学の世界へのイントロを行います。</p> <p>第2回 市場（1） 【遠隔】需要曲線、供給曲線などを用いた部分均衡分析を用いて、現実経済を直感的に理解する方法を学びます。</p> <p>第3回 市場（2） 【遠隔】価格弾力性の概念や、クモの巣調整過程についての議論を学び、現実経済への応用を行います。</p> <p>第4回 家計の行動（1） 【遠隔】家計の効用最大化行動を復習し、顕示選好の理論などを用いて、「見えない」選好関係を観察するという手法を学びます。</p> <p>第5回 家計の行動（2） 価格の変化から需要曲線を導出します。可能であれば、双対関係についても解説します。</p> <p>第6回 企業の行動（1） 費用とは何か。企業行動の理論についてより深い理解を試みます。</p> <p>第7回 企業の行動（2） 【課題】費用についての応用事例や、マニュファクチャの成立過程などについて学びます。</p> <p>第8回 完全競争市場と資源配分（1） 余剰分析を応用し、さまざまな経済政策についての効率性の分析を行います。</p> <p>第9回 完全競争市場と資源配分（2） パレート最適概念を解説し、厚生経済学の第1基本定理、第2基本定理について説明します。</p> <p>第10回 不完全競争市場（1） 独占と複占理論（クールノー＝ナッシュ均衡とコアの概念）などを学習します。</p> <p>第11回 不完全競争市場（2） 【課題】ゲーム理論について学習し、戦略的貿易政策などの応用事例について考察します。</p> <p>第12回 市場の限界（1） 身近な外部性についての事例を挙げ、ミクロ経済理論を用いて考察します。</p> <p>第13回 市場の限界（2） モラル・ハザードの概念やフリーライダー問題などについて、応用事例を挙げながら考察します。</p> <p>第14回 ミクロ経済学の世界（1） 【課題】これまで学習した知識をもとに、現実の経済を分析します。</p> <p>第15回 ミクロ経済学の世界（2） 近年の経済学の拡張について説明し、身近な事例を挙げて考察します。</p>
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	ミクロ経済学の知識をもとに、現実経済を考察することができる。
到達目標	価格理論や資源配分メカニズムについて理解し、現実経済において適用できるかどうか、検討・議論できるようになることを到達目標とします。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	講義中に課題を出します。
履修上の注意	学部生向けのミクロ経済学よりも応用面を重視します。各回のテーマに合わせて基本的な概念を確認し、その概念を用いて現実の経済を検討するという作業を毎回行う予定です。ですから、「自分の頭で考える」という意識を持って受講してください。
成績評価の方法・基準	平常課題ないし講義内課題30%＋定期試験70%による評価を行います。
教科書	
参考書・教材	【参考書】『エンサイクロペディア現代経済入門』 著者名：茂木 創 出版社：唯学書房 発行年：2014年 価格：6912円 備考：高価な本ですが、1冊でミクロ経済学・マクロ経済学を網羅しています。より深く勉強したい学生が参考書として使用してください。／『クルーグマンミクロ経済学』 著者名：ポール・クルーグマン＆ロビン・ウェルス 出版社：東洋経済新報社 発行年：2009年 価格：5184円 備考：この本も定評のあ

	<p>るマイクロ経済学の入門テキストです。マイクロ経済学だけでこの値段はちょっとお高いですが、こちらもより深く学習したい学生が参考書として使用してください。【教材】教科書はしません。レジメを配布し、講義を行います。 開講時ないし毎回の講義でリーディング・リストを配布します。</p>
備考	講義科目
教員との連絡方法	E-mailにて受け付けます。